



当センターでは11月14日、NPO法人森のなりわい研究所の伊藤栄一さんらを講師に迎え、小学5年生から中学2年生とその保護者を対象とした「街なか林業体験」を開催。親子で体験を通して、自然や森林への理解を深める1日となりました。



自然を活かす
クラフトアート♪



パカーンと
真っ二つに
薪割り体験!

木曽川がつなく自然の恵み

「なごやの飲み水は木曽川から、では木曽川はどこから来ていますか?」と和やかに始まった体験当日。講師の伊藤さんをはじめ同研究所の皆さんは、名古屋の水源にもなっている飛騨川上流域(下呂市)で活動しています。午前中は、そんな伊藤さんたちの拠点である川の上流と、参加者らが住む下流のつながりの話からスタート。生活に欠かせない水をはじめ、木材などの物流のこと、アユは川をどう使っているかといった話を通して、上下流のつながりの深さを感じました。

ワクワク!! 実験&クラフト体験

午後は、クスノキから香り成分「樟脳(しょうのう)」を取り出す蒸留実験を行いました。実験前には、クスノキにまつわる神話や利用方法などのトークも。その後、手順を確認し、太い幹、細い枝、葉っぱのどれが樟脳を多く抽出できるか予想していざ実践へ!親子で協力しながら取り組みました。

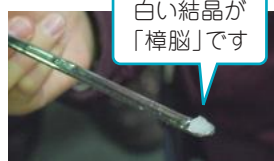
このほか、クスノキを使った葉っぱアートや、枝のキーホルダーづくり、薪割りなど、参加者は多彩なテーマを体験。身近な樹木の活用について楽しみながら学び、その大切さを知る機会となりました。



その後、南ひだ森林組合指導のもと、当センターのクスノキを伐採しました。参加者らも、チルホールと呼ばれる器具を操作し、伐倒のお手伝いへ。ミシミシと音がなり、倒れる瞬間には誰もがくぎ付けになっていました。そして、倒れた樹木からは爽やかな香りが!これはクスノキに含まれる成分で、防虫剤などにも使用されているものです。参加者らは倒れた木を観察したり、香りに癒されたり、自然の偉大さを体感していました。



蒸気が管を通して
試験管の中へ



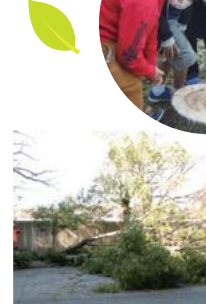
白い結晶が
「樟脳」です



倒す方向を考えて切り込みを入れます。



器具を操作すると、木に繋がれたワイヤーが引かれて、木が倒れます。



大迫力!木が倒れる様子に圧倒されました。